

## 台灣非主修日語學習者的學習困擾與學習動機之研究 ——以高中日語學習者為對象——

李煥然、陳相州

東吳大學日本語文學系／畢業生、東吳大學日本語文學系／副教授

### 摘 要

本研究目的在於了解臺灣高中非主修日語學習者之學習困擾與學習動機、探討其學習困擾與學習動機的關聯性，並與大學非日文系的日語學習者進行比較考察。本研究以高中第二外語初級日語班共 90 名非日文主修學生為對象實施問卷調查後，進行因素分析與多元回歸分析。

根據分析結果顯示，高中非日文主修學生之學習困擾為：「學習環境・心理上的不安」、「自主性學習上的問題」、「溝通交流問題」、「對異國文化之抗拒感」等 4 項因素。高中非日文主修學生之學習動機為：「實用取向」、「對大眾文化的興趣」、「知識提升取向」、「依戀情感」、「國際理解」等 5 項因素。同時，結果顯示日語的學習動機會受到學習困擾的影響。針對抱持著「自主性學習上的問題」和「溝通交流問題」的高中非主修日語學習者，分別提出了解決方法。另外，在不同的教育階段學習者所重視的目標有很大的不同，也會對學習動機造成不同的影響。希望本研究結果能夠作為台灣日語教師在指導學生學習時之參考，幫助高中的日語學習者克服在課外學習活動上所遇到的問題。

**關鍵詞：**非主修日語學習者、高中日語學習者、學習困擾、學習動機、問卷調查

# 台湾における日本語非専攻学習者の学習困難度と動機付けに関する調査研究 —高校生日本語学習者を中心に—

李煥然、陳相州

東呉大学日本語学科／卒業生、東呉大学日本語学科／副教授

## 要 旨

本研究は、台湾の高校における非専攻学習者を対象に、日本語学習における学習困難度と動機付け、及びそれらの関係を明らかにし、大学における非専攻学習者との比較検討を行うことを目的とする。日本語非専攻の高校生 90 名を対象にアンケート調査を行い、因子分析と重回帰分析による分析を行った結果、学習困難度に関しては、「学習環境・心理的不安」、「自発的学習上の問題」、「コミュニケーション上の問題」、「異文化への抵抗感」の 4 因子から構成されており、動機付けに関しては、「実利志向」、「大衆文化への関心」、「知識向上志向」、「愛着感情」、「国際理解」の 5 因子構造であることがわかった。また、動機付けは学習困難度から影響を受けていることが明らかになった。さらに、教育段階によって重視される目標は大きく異なっており、動機付けに対する影響が変わっていくことが示唆された。「自発的学習上の問題」や「コミュニケーション上の問題」を抱えている高校における日本語非専攻学習者に対し、それぞれの解決策の提示を試みた。本研究の研究成果は、高校における日本語学習者が授業以外の学習活動で直面している問題を改善し、日本語教師が指導をする際の参考として活用できたら幸いである。

**キーワード：**日本語非専攻学習者、高校生日本語学習者、学習困難度、動機付け、アンケート調査

**A Study on the Learning Difficulties and Motivation of Non-Japanese Major learners in Taiwan**  
**-Focusing on Senior High school Japanese Learners-**

Lee Huan-Jan, Chen Shiang-Jou

New Graduate/ Department of Japanese Language and Culture,  
Soochow University

Associate Professor/ Department of Japanese Language and Culture,  
Soochow University

**Abstract**

This study aims to understand the learning difficulties and motivations of non-Japanese Major learners in senior high schools in Taiwan, to investigate the correlation between learning difficulties and motivations, and to compare the results with Non-Japanese major learners in universities.

According to the results of the factor analysis and multiple-regression analysis, learning difficulties consist of four factors including, “learning environment and psychological anxiety”, “self-study challenges”, “communication problems” and “resistance to foreign cultures”. Learning motivations consist of five factors including, “practical orientation”, “interest in popular culture”, “orientation to improvement of knowledge”, “attachment”, “international understanding”.

The results also showed that motivation is affected by learning difficulties. In addition, the goals valued by learners and learners' motivation varies depending on their level of education.

**Keywords:** Non-Japanese Major learners, Senior High School Japanese Learners, Learning difficulties, Learning motivation, Questionnaire method

# 台湾における日本語非専攻学習者の学習困難度と動機付けに関する調査研究 —高校生日本語学習者を中心に—

李煥然、陳相州

東呉大学日本語学科／卒業生、東呉大学日本語学科／副教授

## 1. はじめに

現在は、国際化社会が進む中で、語学力が必要とされつつある。台湾の後期中等教育（高校）では、英語以外の外国語教育が重視され始め、第二外国語の科目が多く導入されており、日本語学習者数の増加が期待できると言えるだろう。国際交流基金（2019）により、2018年に台湾の日本語教師数は4016人で、学習者数は170159人で、世界順位ではそれぞれ5位と7位という上位にランクされており、世界的に見ても台湾における日本語学習が盛んに行われていることがわかった。しかし、国際交流基金（2015）の調査と比較したところ、教師数が+229人（+5.9%）でやや伸びたのに対し、台湾の学習者数は-49886人（-22.7%）で大幅に減少したことが読み取られる。

台湾の中高等教育（高校・大学）においては、第二外国語の科目があるため、第二外国語学習者数が最も大きな割合を占めているが、レベルが上がるにつれ、クラスが8割以上も減っている現象が報告されている（呉, 2011）。また、楊（2012）は、学習者数が多い中で、日本語学習を長く継続することが難しく、途中で挫折するケースがしばしば見受けられており、学習者の日本語学習をいかに持続させるのかが台湾の日本語教育の問題点として指摘している。

第一言語獲得では、だれもが類似した習得過程をたどるのに対し、第二言語習得では、さまざまな要因により、習得の速度と達成度に個人差が生じる。そのような相違が何に起因するのかを明らかにすることは、近年の第二言語習得における重要な研究課題の一つである。筆者は、同じ条件（場所や教材など）で授業を行なってい

ても、その到達度や成果が学習者によって異なることを、日本語教育の現場で頻繁に経験している。学習者によって異なる特性、いわゆる個人差と呼ばれるものには、言語適性、動機付け、学習開始年齢、学習スタイル、学習ストラテジーなど様々な学習者要因が関わっていると考えられる。そのうち、学習者が持つ学習に対する関心や意欲である「動機付け」との概念は、初級段階では第二言語習得の効率に、最も直接で大きな影響を与える要因として、教師や研究者の注目を大きく浴びている。

## 2. 先行研究

台湾における非専攻学習者を対象とした日本語学習の動機付けに関する研究には洪（2009）、盧（2012）、楊（2012）などがある。

洪（2009）は台湾の中部にある某技術学院<sup>1</sup>（2011年に大学に昇格）において、日本語を教養科目として履修している非専攻学習者を対象に、学習動機付けについてアンケート調査を行った。その結果、「自己成長」、「流行文化」、「異文化理解」、「進学か就職」、「レジャー・生活」、「親近感」の六因子が抽出された。さらに、学習動機付けの性別差で検討したところ、各カテゴリーの動機付けの全体的な平均値により、女性学習者に比べ、男性学習者の方が学習動機付けの強さを高く示している。その中でも「流行文化」と「異文化理解」の二つのカテゴリーは、性別差の有意な顕著性が見られたと報告している。

また、盧（2012）は高校において、日本語を第二外国語として履修している非専攻学習者を対象に、その学習動機について質問紙調査を行った。調査の結果として、順位をつけたところ、「交流志向」、「大衆文化への関心」、「実利志向」、「日本語学習への興味」の四因子が抽出された。さらに、性別による学習動機の違いを考察したと

---

<sup>1</sup> 洪（2009）の調査対象となった日本語学習者は、いずれも当学校の4年制の学生であり、大学生に相当すると見られる。

ころ、「日本語学習への興味」と「交流志向」の二つの因子においては、性別の違いによって平均値に有意な差があると指摘し、男性は女性より学習動機の低い傾向が見られたと報告している。洪(2009)の結果と比較したところ、高校における日本語学習者は、男性より女性学習者の方が学習動機を強く持っているが、大学段階になった場合、女性に比べ、男性学習者の方が学習動機の高さを示していると分析されている。そのため、学習動機の性別差が教育段階により大きく異なることもあることがわかった。

一方、台湾における学習者の日本語学習が継続されずに終わることには、学習プロセスに何らかの困難により、動機付けが影響されると指摘されている(楊、2012)。そのため、楊(2012)は台湾の大学で日本語を学習している非専攻学習者 259 名を対象とし、日本語学習における学習困難度と動機付けについて質問紙調査を行った。その結果、学習困難度は「教育環境の問題」、「上級日本語運用力の不足」、「教室内の発話不安」、「音声習得上の問題」、「日本語使用機会の不足」、「有能感の喪失」の六因子構造であり、動機付けは、「実用性重視志向」、「大衆文化への興味」、「日本関連志向」、「日本文化への関心」、「日本語学習への興味」、「交流志向」、「外的評価重視志向」の七因子から構成されていることが明らかになった。さらに、学習困難度と動機付けの関係を検討したところ、学習困難度が何らかの動機付けに正または負の影響を及ぼしていると報告し、学習者の動機付けを高めようとするという従来の教育支援よりも、動機付けを左右する学習困難の実態を把握し、その学習困難を解決することが、台湾における日本語の継続学習に必要であると示唆している。

以上のことから、台湾における日本語非専攻学習者の動機付けに関しては、教育段階(高校・大学)により性別差などの違いが見られることが報告されている。しかし、日本語非専攻者が抱えている学習困難度、及び動機付けに与える影響に関する研究の数が少なく、さらにその教育段階による違いについてまだ明らかにされていないため、検討する必要性があるであろう。

このような現状を踏まえ、本研究では、台湾の高校における日本語非専攻学習者に焦点を当て、その学習困難度と動機付け、及びそれらの関連を明らかにし、大学における日本語非専攻学習者との比較検討を行うことを目的とする。

### 3. 研究課題

以上のことを踏まえ、研究目的を達成するために、本研究は研究課題を次のように設定する。

課題①：台湾の高校における日本語非専攻学習者は、どのような学習困難度を抱えているか。

課題②：同研究対象は、どのような動機付けを持っているか。

課題③：同研究対象の学習困難度と動機付けはどのように関連しているか

課題④：大学における日本語非専攻学習者の結果と違いがあるのか

### 4. 研究対象

台北市立某高級中学（後期中等教育機関）に勤務する日本語教師（筆者を含め）が担当している「基礎日語」（初級日本語に相当）の履修者 90 名である。そのうち、一年生男性は 35 名、三年生男性は 11 名、一年生女性は 32 名、三年生女性は 12 名である。被験者は全員 2019 年 9 月から週 2 コマ（一年生）または 1 コマ（三年生）の授業を受け、授業では講義の時間以外、宿題や発表などの学習活動を行っていた。初級段階では学問や知識より学習意欲が重視されているため、筆者を含め、調査校で当科目を担当している教師は、授業の活性化のためのチームワークなど、学習意欲向上につながる様々な活動を導入し、可能な限り分かりやすく楽しい授業を心掛けている。なお、回答者の学習環境や授業内容などの学習条件を揃えるため、本研究では調査校を 1 校に限定した。

## 5. 研究方法

本研究では、楊（2012）を参考にし、質問紙調査の調査票を作成した。調査票の項目内容に関しては、楊（2012）をもとにし、高校生の学習条件に相応しい言葉への変更などの修正を行い、中国語で作成したもので、「学習困難度」と「動機付け」の2つのカテゴリーに分かれ、それぞれ49項目、57項目があり、全106項目で構成されている<sup>2</sup>。調査は授業の際に行われ、調査研究の目的を説明し、この調査票への回答は成績評価とは関係がないことを伝えた上で、各項目に対し、「そう思わない（1点）」、「あまりそう思わない（2点）」、「どちらとも言えない（3点）」、「少しそう思う（4点）」、「そう思う（5点）」という5段階評価で学習者に記入してもらった。書き終えた調査票は、筆者または当授業の担当教師がその場で回収した。

以上の調査票で得られたデータを入力した後、統計ソフト「SPSS Statistics17.0」を用いて因子分析と重回帰分析を行った。

## 6. 分析

以下では、高校における日本語非専攻学習者の学習困難度、動機付けと両者の関連について分析した結果を説明していく。

### 6.1 高校における日本語非専攻学習者の学習困難度

台湾の高校における日本語非専攻学習者が抱えている学習困難度の構造を明らかにするため、得られた90人の回答に基づき因子分析を行った。天井効果が見られた項目（1、7、8、9、10）を除外し、主因子法・プロマックス回転を行った結果、20項目による4因子が抽出された。学習困難度（4因子）のKM0統計量は0.955であり、またBarleetの球面性の検定は $\chi^2(946)=8774.830, p<.001***$ で、有

---

<sup>2</sup> 調査票の項目内容は、資料1を参照。アンケート調査は中国語の調査票を使用した。本稿の説明では、便宜上、日本語訳を用いる。



意であるため、この因子分析は有効であることを示されている。因子分析の結果を表 1 に示す。

表 1 学習困難度に関する因子分析の結果

第 1 因子 「学習環境・心理的不安」	
項目	
25	先生と相談したいが先生が忙しくて時間がない
35	小テストが多くて勉強する時間がない
36	勉強していても達成感が得られない
31	先生の教え方が分かりにくい
18	先生が書く黒板の字が分からない
34	外国語の授業としては、クラスの構成人数が多すぎる
11	先生の話すスピードが速くて分からない
44	勉強しているのに上達しない
21	先生の使う言語が難しくて分からない
17	試験の時、問題が多くて時間が足りない
第 2 因子 「自発的学習上の問題」	
項目	
27	忙しくて日本語を勉強する時間がない
33	日本人との接触機会がない
5	話し言葉と書き言葉を混せて使ってしまう
24	日本語の勉強では、適切なアドバイスをくれる人がいない
28	適切な日本語の参考書や辞書が分からない
第 3 因子 「コミュニケーション上の問題」	
項目	
3	日常会話はできるが、複雑なことが伝えられない
32	身近に日本語を使える環境がない
12	先生との意思伝達がうまくできない

第 4 因子 「異文化への抵抗感」	
項目	
26	日本の文化と日本人の考え方が理解できない
46	外来語がなかなか覚えられない

第 1 因子の項目は、「先生と相談したいが先生が忙しくて時間がない」、「小テストが多くて勉強する時間がない」、「勉強していても達成感が得られない」、「先生の教え方が分かりにくい」、「先生が書く黒板の字が分からない」、「外国語の授業としては、クラスの構成人数が多すぎる」、「先生の話すスピードが速くて分からない」、「勉強しているのに上達しない」、「先生の使う言語が難しくて分からない」、「試験の時、問題が多くて時間が足りない」など、学習者を取り巻く人的・物的学習環境や学習過程で感じる不安と関連する項目からなるため、「学習環境・心理的不安」と命名した。

第 2 因子の項目は、「忙しくて日本語を勉強する時間がない」、「日本人との接触機会がない」、「日本語の勉強では、適切なアドバイスをくれる人がいない」、「適切な日本語の参考書や辞書が分からない」、「話し言葉と書き言葉を混ぜて使ってしまう」など、教室での学習活動ではなく、自発的学習上の問題そのもの、あるいは、自律的な習得活動で発生する困難がもたらす結果と関連する項目からなるため、「自発的学習上の問題」と名付けた。

第 3 因子の項目は、「日常会話はできるが、複雑なことが伝えられない」、「身近に日本語を使える環境がない」、「先生との意思伝達がうまくできない」など、言葉を用いる活動、いわゆる他人とのコミュニケーションや発話経験と関連する項目からなるため、「コミュニケーション上の問題」と命名した。

第 4 因子の項目は、「日本の文化と日本人の考え方が理解できない」、「外来語がなかなか覚えられない」など、異文化接触場面で

起きる新たなものや考え方に対する不慣れな感情を表す項目からなるため、「異文化への抵抗感」と名付けた。

以上のように、台湾の高校における日本語非専攻学習者の学習困難度は「学習環境・心理的不安」、「自発的学習上の問題」、「コミュニケーション上の問題」と「異文化への抵抗感」の4因子から構成されていることが明らかになった。

## 6.2 高校における日本語非専攻学習者の動機付け

台湾の高校における日本語非専攻学習者が持っている動機付けを明らかにするため、因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行った。天井効果が見られた項目（39、41）を除外し、主因子法・プロマックス回転を行った結果、28項目による5因子が抽出された。動機付け（5因子）のKM0統計量は0.814であり、またBarlettの球面性の検定は $\chi^2(1485)=4666.406, p<.001^{***}$ で、有意であるため、この因子分析は有効であることがわかった。因子分析の結果を表2に示す。

表2 動機付けに関する因子分析の結果

第1因子 「実利志向」	
項目	
25	日本語を使う仕事や活動をしている
31	日本に関わる仕事や活動をしている家族や親戚がいる
24	進学、進級のために必要だ
26	将来、日本語を使う仕事がしたい
49	日本語能力試験を準備したい
27	将来、台湾での日系企業に就職したい
35	卒業には単位が必要だ
29	日本の政治、経済に興味がある
48	日本語を学んだことがあり、日本語の勉強を続けたい
30	両親や家族の勧め

22	将来、日本で働きたい
15	日本語で手紙やEメールを書きたい
21	将来、日本で暮らしたい
第2因子 「大衆文化への関心」	
項目	
5	日本の歌を楽しみたい
6	日本の雑誌、新聞や小説を読みたい
23	将来、日本に留学したい
7	日本の漫画やアニメが好きだ
9	日本人や日本の生活を理解したい
8	日本の映画やテレビ、ラジオの内容を理解したい
第3因子 「知識向上志向」	
項目	
4	異文化間の相違に興味がある
2	日本の文化についてより深く理解したい
1	日本の伝統や歴史に興味がある
3	日本文学に興味がある
12	自分の教養を高めたい
第4因子 「愛着感情」	
項目	
42	日本語の先生が好きだ
47	日本のゲームに興味がある
第5因子 「国際理解」	
項目	
32	日本語は国際社会で大切な言語の一つだ
50	日本は親近感がある国だ

第1因子の項目は、「日本語能力試験を準備したい」、「日本で働きたい」、「将来、日本語を使う仕事がしたい」、「将来、台湾での日系企業に就職したい」、「進学、進級のために必要だ」、「日本語を使う仕事や活動をしている」、「両親や家族の勧め」、「日

本に関わる仕事や活動をしている家族や親戚がいる」、「将来、日本で働きたい」、「卒業には単位が必要だ」、「日本語を学んだことがあり、日本語の勉強を続けたい」など、日本語学習の自体ではなく、日本語を学習する行動の成果を認めてもらいたい、あるいは、他人からの評価をもらいたいという意味を表す項目からなるため、「実利志向」と命名した。

第2因子の項目は、「日本の歌を楽しみたい」、「日本の漫画やアニメが好きだ」、「日本の映画やテレビ、ラジオの内容を理解したい」、「日本の雑誌、新聞や小説を読みたい」、「日本人や日本の生活を理解したい」、「将来、日本で勉強したい」など、日本での生活や大衆文化そのもの、あるいは、文化的影響を受けた行動と関連する項目からなるため、「大衆文化への関心」と名付けた。

第3因子の項目は、「異文化間の相違に興味がある」、「日本の文化についてより深く理解したい」、「日本の伝統や歴史に興味がある」、「自分の教養を高めたい」、「日本文学に興味がある」など、知識向上への意欲を表す項目からなるため、「知識向上志向」と命名した。

第4因子の項目は、「日本語の先生が好きだ」、「日本のゲームに興味がある」など、特定の人や物に対する好悪の感情を指す項目からなるため、「愛着感情」と名付けた。

第5因子の項目は、「日本語は国際社会で大切な言語の一つ」、「日本は親近感がある国」など、国際理解と関連する項目からなるため、「国際理解」と命名した。

以上のように、台湾の高校における非専攻者の日本語学習の動機付けは「実利志向」、「大衆文化への関心」、「知識向上志向」、「愛着感情」と「国際理解」の5因子から構成されていることが明らかになった。

### 6.3 学習困難度と動機付けとの関連

6.1 と 6.2 節で抽出された学習困難度と動機付け二つの尺度間に

どのような関係があるかを検討するため、学習困難度を説明変数、動機付けを基準変数とし、強制投入法による重回帰分析を用いて行った。その結果を表 3 に示す。

表 3 学習困難度と動機付けの重回帰分析の結果

学習困難度（説明変数）	動機付け（基準変数）				
	実利志向	大衆文化 への関心	知識向上志向	愛着感情	国際理解
学習環境・心理的不安	.141	-.169	-.185	-.033	-.220
自発的学習上の問題	.114	.097	.288*	.338*	.155
コミュニケーション上の問題	-.052	.374**	.254*	-.128	.227
異文化への抵抗感	.019	-.225*	-.169	-.051	-.124

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$ （数値は標準化係数  $\beta$ ）

分析の結果、以下の 3 点が明らかとなった。まず、動機付けの「大衆文化への関心」に対し、学習困難度の「コミュニケーション上の問題」が有意な正の影響、「異文化への抵抗感」が有意な負の影響を及ぼしている。次に、動機付けの「知識向上志向」には、学習困難度の「自発的学習上の問題」と「コミュニケーション上の問題」が有意な正の影響を及ぼしている。さらに、動機付けの「愛着感情」には、学習困難度の「自発的学習上の問題」が有意な正の影響を及ぼしている。

以上のように、重回帰分析によって学習困難度と動機付けの関係を検討したところ、学習困難度が動機付けに何らかの影響を及ぼしていることが明らかになった。「実利志向」と「国際理解」を除き、台湾の高校における非専攻学習者の動機付けには、何らかの学習困難度が正または負の関連を示している。

## 7. 考察

以下では、前節で分析した結果を考察し、また大学で日本語を習う日本語非専攻学習者と違いがあるのかを検討する。

### 7.1 学習困難度と動機付けの関連

ここでは、重回帰分析を用いて得られた 6.3 節の結果について、基準変数の因子ごとに考察を加える。

第一に、動機付けの「大衆文化への関心」には、学習困難度の「コミュニケーション上の問題」が有意な正の影響を、「異文化への抵抗感」が有意な負の影響を与えていることが示された。つまり、他人とのコミュニケーションに困難を感じている、または異文化への抵抗感を覚えていない日本語非専攻学習者は、日本の大衆文化への関心が深まる傾向が見られた。このことは、学習者が他人との言葉による意思伝達の過程に挫折した経験から、自分のコミュニケーション能力不足を意識したことによって、自発的に日本のテレビ、ドラマや雑誌などの「教材」を発掘するようになり、教室活動以外のことから、日本語学習の達成感を得ようとするのではないかと考えられる。そのため、日本の大衆文化への関心に影響を及ぼすことにつながる。一方で、異文化への抵抗感が低い学習者は、自国とは異なる習慣や文化に積極的に触れる傾向があると思われるため、日本の大衆文化から影響を受けるようになり、関心が深まると考えられる。

第二に、動機付けの「知識向上志向」には、学習困難度の「自発的学習上の問題」と「コミュニケーション上の問題」が有意な正の影響を及ぼしていることが示された。すなわち、日本語非専攻学習者は自発的学習上の問題を抱え、他人とのコミュニケーションが困難であると感じていることがあれば、自身が持っている日本の文化に関する知識をより広げたいという向上志向が強まる傾向にあった。このことから、日本語非専攻学習者は学習上の失敗を経験した

場合、学習過程に発生する問題の解決方法の背景知識として、伝統文化、歴史や文学など、日本文化に関する専門的な教養を積極的に身につけたいと思っているのではないかと考えられる。そういったことにより、自律的な習得活動や言語交流がより楽しめるようになり、日本語学習の継続性に新たな刺激をもたらす可能性が推察される。

第三に、動機付けの「愛着感情」には、学習困難度の「自発的学習上の問題」が有意な正の影響を与えていることが示された。つまり、自発的な学習過程で何らかの困難を感じている非専攻学習者は、特定の人や物に対する愛着感情という動機付けが高まる傾向が見出された。このことは、学習過程で発生した失敗経験がある場合、人や物に対する愛着感情に頼ることによって、モチベーションが上がる土台を整えようと学習者は思っていると推測される。

以上のことを総合的に考慮すると、コミュニケーション上の問題や自発的学習上の問題を抱えている学習者の動機付けを高めるためには、本研究の結果を活かし、日本の大衆文化、歴史や文学を紹介したり、人や物に対する愛着感情を持たせたりすることは効果的だと言えるのではないだろうか。

高校における日本語非専攻学習者の場合、大学生と比べ、時間的にも金銭的にも自主性が低く、自由な学習活動を展開することが難しいと思われるため、教室現場ではなかなか取り上げられない日本語のスキルに取り込む余裕があまり与えられないと推測される。また、週に2コマまたは1コマしか授業を受けていないため、学習者が自ら積極的に接触しない場合、日本語に触れる機会が限られている。このような自発的学習の重要性が高まっている中で、自主的に積極的な学習活動をする非専攻学習者が決して少ないとは言えないだろう。しかし、学習者が自ら積極的に日本語に接触しようとしても、順調に進まないような困難に感じる人が多いと示された。

また、学習条件が十分に整っていない中で、学習過程に発生した様々な問題を解決せずに継続した場合、学習者の有能感や語学学習



への関心の喪失に繋がり、モチベーションを低下させる可能性が推測される。そのため、解決策としては、常に学習者がどういった学習プロセスを経て、ここまで至ったか、あるいは、授業以外ではどのような努力をしてきたかを知ることが重要であると考えられる。日本語学習に大きな関心を寄せているにもかかわらず、授業以外の学習活動において何らかの問題に直面している学習者が珍しくない中で、こういった学習者の実態を的確に把握することによって、教師が必要な支援を提供すれば、より高い学習効果をもたらすことができると考えられよう。

## 7.2 大学における日本語非専攻学習者との比較

台湾の大学における日本語非専攻学習者の場合には、「有能感の喪失」と「音声習得上の問題」（いずれも負の影響を及ぼしている）が日本語学習の動機付けに多く関与していることが報告されている（楊、2012）。また、楊（2012）では、試験内容の難易度や評価の仕方を配慮したり、学習者自身の進歩を意識させたりすることなどによって有能感を失わせないことと、音声指導を行う際に過剰な指導に注意が必要であることを解決策として挙げられた。一方で、本研究の分析結果により、台湾の高校における日本語非専攻学習者の動機付けに、最も関連している項目として「自発的学習上の問題」と「コミュニケーション上の問題」（いずれも正の影響を及ぼしている）が挙げられている。

大学における日本語非専攻学習者の場合、高校生と比べ、明確な結果を求める傾向が見られ、自分自身の日本語学習を評価する際に、試験の成績やクラスメートとの比較で判断することが多いため、周りに左右されやすい状態にあると考えられている。一方で、高校における学習者は、他者による評価よりも自分の学力に重点を置き、日本語学習そのものに集中する傾向が見られている。さらに、直面している学習困難に対して積極的な変革を創出し、動機付けを高める原動力にする傾向があると示されている。このことから、教育段

階によって重視される目標は大きく異なっており、動機付けに対する影響が変わっていくことがわかった。

本研究では、以下のようなことが明らかになった。「自発的学習上の問題」を抱えている学習者に対し、日本の歴史や文学（知識向上志向）、ゲーム（愛着感情）などを紹介したり、接触頻度を増やすことで学習者から好意的な評価を受け、学習者との関係を密接にしたりすることが動機付けを高めるための有効な方法であると言えるだろう。一方で、「コミュニケーション上の問題」を抱えている学習者の動機付けを向上させるには、日本のドラマやアニメ、映画をすすめたり、日本の伝統文化の紹介や日本の生活に関連する話題を授業に導入したり（大衆文化への関心・知識向上志向）することは効果があると考えられよう。

## 8. まとめと今後の課題

本研究では、これまでに焦点を当てられることが少なかった台湾の高校生を対象に、日本語非専攻学習者の学習困難度と動機付けを明らかにし、それらの関連を探ることを目的として質問紙調査を行った。その結果、学習困難度に関しては、「学習環境・心理的不安」、「自発的学習上の問題」、「コミュニケーション上の問題」、「異文化への抵抗感」の4因子からなることが明らかとなった。また、動機付けに関しては、「実利志向」、「大衆文化への関心」、「知識向上志向」、「愛着感情」、「国際理解」の5因子構造であることが明らかとなった。さらに、重回帰分析を用いて台湾の高校における非専攻日本語学習者の学習困難度と動機付けの関係を検討したところ、学習困難度が何らかの動機付けに正または負の影響を及ぼしていることが示唆された。「自発的学習上の問題」や「コミュニケーション上の問題」を抱えている高校における日本語非専攻学習者に対し、それぞれの解決策の提示を試みた。

以上のとおり、本研究では、台湾の高校における非専攻学習者の学習困難度と動機付けとの関係を検討した。本研究で明らかになっ

た学生の学習困難度と動機付けとの関係を念頭に置き、授業計画やシラバスの作成などを考える際の参考として活用できたら幸いである。

しかし、学習困難度や動機付けは時間の経過、社会情勢の変化、学習者の属性、個人経験などにより変容する可能性があるため、一時的ではなく経時的な調査研究を行い、時間軸に沿う縦断的な研究の結果と付き合わせて検証していく必要性を感じる。加えて、本研究の結果はあくまで全体的な傾向であり、個々の学生の学習困難度と動機付けを示すものではないため、個人により異なる学習困難度と動機付けが存在する。また、本研究は調査校を市立高校 1 校に限定し、分析対象とした人数が少ないため、結果の一般化ができないと思われる。同様な傾向が認められるかどうか、調査校を増やし、また全国的な調査を実施するなど、性別差や学年ごとの比較検討を行うことが今後の課題である。

## 参考文献

- 洪良倩（2009）「台湾の大学における日本語の学習動機付けについての調査研究—非専攻者の学習者を中心に—」『中州学報』28, 275-288
- 国際交流基金(2015)「2015 年度 海外日本語教育機関調査」『海外の日本語教育の現状 2015 年日本語教育機関調査より』  
〈[https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey\\_2015/all.pdf](https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2015/all.pdf)〉（2019 年 11 月 27 日閲覧）
- 国際交流基金（2019）「2018 年度 海外日本語教育機関調査結果（速報値）」  
〈<https://www.jpf.go.jp/j/about/press/2019/dl/2019-029-02.pdf>〉（2019 年 11 月 27 日閲覧）
- 呉展宇（2011）『日本語を第二外国語とする学習者の学習動機に関する一考察—グラウンデッド・セオリーの試み—』銘伝大学大学院応用日本語学科修士論文

- 楊孟勳（2012）「台湾における日本語非専攻学習者の学習困難度と動機付け」『台湾日本語文学報』31, 201-226
- 盧錦姬（2012）「台湾の高校生の日本語学習における動機付けと学習態度—第二外国語として日本語を受講する学生を中心として—」『台大日本語研究』23, 215-242

資料 1

〈中国語版質問紙〉

「學習困擾」

1. 在有限的閱讀時間內，無法完全理解日文報紙或短篇文章的內容
2. 不了解論文之類的文章架構或日文表現方式
3. 雖然會說簡單的日常會話，但無法表達較複雜的事情
4. 學不會日本社會上通用的敬語表現
5. 經常會把口語體日文跟書寫體日文混著使用
6. 不懂日本人彼此對話時使用的口語日文
7. 不曉得該如何用日文做口頭報告或表達自己的意見
8. 無法用日文流利地寫作文或報告
9. 聽不懂日本的廣播、電視節目或新聞報導裡的日語
10. 覺得自己會的單字太少
11. 老師的說話速度很快，不易了解
12. 在想法上，和老師無法做良好的溝通
13. 無法用日語跟老師做日常的對話
14. 不了解學習日文的方法
15. 不了解日文的文法
16. 覺得教科書或教材內容不易了解
17. 考試時，題目太多，作答時間不夠
18. 老師的板書不易理解
19. 考試時會很緊張
20. 不清楚如何使用圖書館跟收集資料的方法
21. 老師使用的詞彙很難，不易理解

22. 對於日文片假名的書寫不是很拿手
23. 對於日文漢字的讀音不是很拿手
24. 在日文學習上，沒有可以給自己適當建議的人
25. 雖然想和老師商量，但老師總是很忙抽不出時間
26. 無法理解日本文化及日本人的想法
27. 自己本身很忙，抽不出時間來念日文
28. 不知道有哪些適當的日文參考書或字典
29. 日文的考試成績都沒什麼進步
30. 不會簡單的日常會話
31. 老師的教學方法不易了解
32. 周遭沒有可以使用日語的環境
33. 沒有跟日本人接觸的機會
34. 就語言課程來說，班上的人數太多
35. 小考的次數很多，沒時間念書
36. 學了也得不到什麼成就感
37. 在大家的面前講日語，會覺得不好意思
38. 如果在大家的面前講錯日文，會覺得很丟臉
39. 如果在大家的面前日文發音發不好，會覺得很丟臉
40. 在老師的面前，會變得很緊張
41. 覺得自己的程度遠低於班上同學
42. 會搞不清楚日文的漢字跟中文的國字之間的異同
43. 跟不上課程的進度
44. 雖然有唸書，但不覺得有什麼進步
45. 單字都不太記得住
46. 外來語都不太記得住
47. 無法學好日文的聲調
48. 無法聽清楚日文的發音
49. 不懂日文的句子或文章段落的分法

### 「學習動機」

1. 因為對日本的傳統、歷史感興趣
2. 因為想更深入地了解日本文化
3. 因為對日本文學感興趣
4. 因為對不同文化間的差異感興趣
5. 因為喜歡日本歌曲
6. 因為想看懂日本的雜誌、報紙或小說
7. 因為喜歡日本的漫畫、卡通動畫
8. 因為想了解日本的電影、電視或廣播節目
9. 因為想了解日本人或在日本的生活
10. 因為想被認為是有學識素養的人
11. 因為想學日文當第二外語
12. 因為想提升自己的學識素養
13. 因為想在考試上取得好成績
14. 因為懂日文的話，覺得很酷！
15. 因為想用日文寫信或 E-mail
16. 因為想和日本人溝通交流
17. 因為想和日本人做朋友
18. 因為學日文很有趣
19. 因為喜歡日語
20. 因為喜歡日文字（假名或漢字）
21. 因為將來想住在日本
22. 因為將來想在日本工作
23. 因為將來想到日本留學
24. 因為升學或升級的需要
25. 因為現在正從事需要使用日文的工作或活動
26. 因為想從事需要使用日文的工作
27. 因為想進台灣的日商公司工作
28. 因為對台灣而言，日本是台灣外交上重要的國家
29. 因為對日本的政治、經濟感興趣

30. 因為父母或家人的建議
31. 因為家人或親戚在從事與日本相關的工作或活動
32. 因為日語是國際社會上重要的語言之一
33. 因為學日文的話有利於就業
34. 因為受到朋友或認識的人的影響
35. 因為畢業需要學分
36. 因為正好學校有開日文課
37. 因為上日文課很有趣
38. 因為對日文與母語之間，語言上的差異感到有興趣
39. 因為想到日本旅行
40. 因為日本離台灣很近
41. 因為將來說不定派得上用場
42. 因為喜歡日文老師
43. 因為想了解日本商品說明書的內容
44. 因為喜歡日本的產品（生活用品、化妝品、電玩遊戲機）
45. 因為想透過日文，用不同的觀點來思考
46. 因為想看懂日本的網頁
47. 因為對日本的電玩感興趣
48. 因為以前學過，所以想繼續學
49. 因為想準備日文能力的檢定考試
50. 因為覺得日本是很有親切感的國家
51. 因為想學英文以外的外語
52. 因為對英文沒自信
53. 因為家人或親戚中，有人會講日語
54. 因為覺得日文應該很好學
55. 因為覺得在台灣，日文的實用性應該滿高的
56. 因為日文是日常生活中經常會接觸到的外語
57. 因為對日本與台灣之間的歷史問題感到有興趣